



地球のいのちの営みと調和、融合して
共に生き合うコミュニティづくりの情報を発信する

いのちの森通信



財団法人
いのちの森
文化財団



Vol. 17
2011 JAN.

平成23年1月15日発行
編集 山下 薫

発行/ 財団法人いのちの森文化財団 〒380-0888長野市大字上ヶ屋2471番地2198 TEL 026-239-0010 FAX 026-239-0011
ホームページ http://inochinomori.or.jp Eメール zaidan@inochinomori.or.jp

いよいよ与えられた5回シリーズの最終回になりました。最初に約束したように、今回は、「これからの持続可能な社会の姿」をできるだけ具体的に話ししたいと思います。先回はその前置きとして、これまで日本で提案されてきた社会の姿は、大きく二つのタイプ（「技術依存型」と「自然共生型」）に分かれることを話しました。私は、後者を強く推す立場ですが、なぜそれを主張するのか、またその具体像はどのようなものかを述べて、締めくくりたいと思います。

「技術依存型（シナリオA）社会」の問題点

我が国がずっと推進してきたシナリオAを筆者が批判する最大の理由は、これまでの技術がほとんど石油によって成り立っていることです。いま人類が直面する危機の一つが石油資源の逼迫である。石油から抜け出すための技術として、自然エネルギーと原子力の開発に国も力を入れています。前者は限界があります。前者は時間当りの量がとても少なく、後者は資源量に限りがある。同時に核に固有のリスクがあるからです。

【連載】地球にやさしい社会を実現するために⑤

持続可能な社会の姿

～自然と共生する社会の姿～



内藤 正明

(京都大学名誉教授)

我が国がこれほど既存の技術にこだわるのは、戦後の復興のために産業立国の道を選び、産業の発展こそが国の発展であるとしてきたからです。産業社会では国民は企業で「労働者」として働き、企業に所属しないと自らのアイデンティティさえも持つことができません。国民は一兵士として国のために身を捧げて戦場に赴きました。このように、国民というのは組織のために献身することが生きる道であるという歴史を経た我々が、一人一人が主役として自らの幸せのために行動するという、真の《市民社会》の意味を理解するのが困難であるのも当然かもしれません。

必要になるのでは、巨大産業資本を導入して、その力に依って経済発展しようとしてきました。それが、それは利益の大半が地域外に吸い取られ、地域には傷跡だけが残り、多々ありました。このように市民社会での技術は、どのようなものになるでしょう。その条件の第一は、それが《真に市民のための》ものであるかということです。それは、企業利益を目指してきたこれまでの技術が、必ずしも市民の幸福に役立ってきたわけではなく、しかも、大量生産と過度な高付加価値化で、環境と資源の危機という、将来世代へのツケをもちたってきたためです。最近になって、「社会技術」という言葉が使われるようになってきました。これは、これまでの株主（stockholder）ではなく、社会全体（stakeholder）の利益のための技術ということでしょう。なお、そのような技術を作り出す主体は、当然市民の知恵と力ということになるはず。もう一つの大事な条件は、化石燃料に大きく依存しない「脱石油型」、または「低炭素型」であることです。そのためには、地域の「資源、人材、資本」さらに「伝統、文化」を基にして創られる「地域適正技術」となるでしょう。その特性を上げてみると、

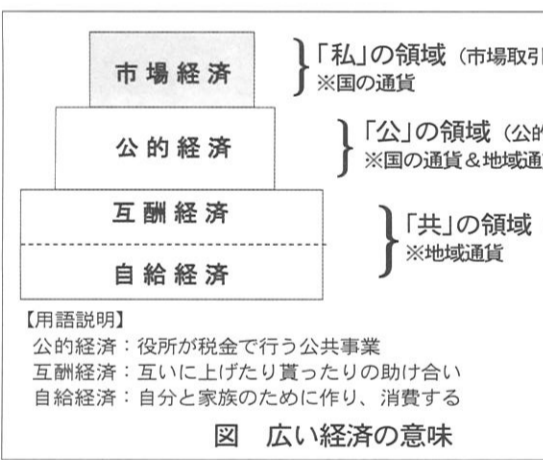


図 広い経済の意味

【用語説明】
公的経済：役所が税金で行う公共事業
互酬経済：互いに上げたり貰ったりの助け合い
自給経済：自分と家族のために作り、消費する

戦後の日本は衣食住を充足することが最大の課題でした。その後は経済成長に伴ってモノが豊富になりました。《モノの豊かさ》より《心の豊かさ》が求められ、その差は急速に開いていきました。では、心の豊かさとはどんなものか。この議論は、いまも続いています。歴史の中で、モノが乏しくても心豊かに生きた例としては、江戸時代が一つの典型だと言われます。ここでは、多様な文化が開き、いまでも日本の代表的な文化の時代として世界的にも知られています。つまり、モノを消費しないで豊かな時間を持つために、芸術や芸能、工芸を極め、またカラクリや和算なども知的充足のために、さまざまな文化が開かれました。江戸時代は、貯金のための資源を大量に消費し

が大事になるでしょう。これまでは多くの場合、巨大産業資本を導入して、その力に依って経済発展しようとしてきました。それが、それは利益の大半が地域外に吸い取られ、地域には傷跡だけが残り、多々ありました。このように市民社会での技術は、どのようなものになるでしょう。その条件の第一は、それが《真に市民のための》ものであるかということです。それは、企業利益を目指してきたこれまでの技術が、必ずしも市民の幸福に役立ってきたわけではなく、しかも、大量生産と過度な高付加価値化で、環境と資源の危機という、将来世代へのツケをもちたってきたためです。最近になって、「社会技術」という言葉が使われるようになってきました。これは、これまでの株主（stockholder）ではなく、社会全体（stakeholder）の利益のための技術ということでしょう。なお、そのような技術を作り出す主体は、当然市民の知恵と力ということになるはず。もう一つの大事な条件は、化石燃料に大きく依存しない「脱石油型」、または「低炭素型」であることです。そのためには、地域の「資源、人材、資本」さらに「伝統、文化」を基にして創られる「地域適正技術」となるでしょう。その特性を上げてみると、

戦後の日本は衣食住を充足することが最大の課題でした。その後は経済成長に伴ってモノが豊富になりました。《モノの豊かさ》より《心の豊かさ》が求められ、その差は急速に開いていきました。では、心の豊かさとはどんなものか。この議論は、いまも続いています。歴史の中で、モノが乏しくても心豊かに生きた例としては、江戸時代が一つの典型だと言われます。ここでは、多様な文化が開き、いまでも日本の代表的な文化の時代として世界的にも知られています。つまり、モノを消費しないで豊かな時間を持つために、芸術や芸能、工芸を極め、またカラクリや和算なども知的充足のために、さまざまな文化が開かれました。江戸時代は、貯金のための資源を大量に消費し

ながら、満たされない思いをしているのに比べると、圧倒的にエコでしかもそれなりに豊かであったことは、石川英輔氏の大江戸シリーズにも見られるとおりです。

もう一度、人の存在理由から問い直す

以上を要約すると、シナリオBの社会は、「脱温暖化（脱炭素）」と同時に、いま我々が直面している様々な社会の行き詰まり状況も併せて、大きく変えようとするものです。一言でその本質を表現すれば、「脱石油」という制約条件の下に、「誰もが幸せに暮らせること」を最終の目標とすることです。そのためには、「人と人、人と自然が共に生きる」社会の構築です。それは、20世紀に作り上げてきた社会とは根底から違っている。現在の生活から技術、社会基盤、法・経済制度、そして価値観・倫理観まで一貫して、変えねばならないでしょう。

しかし、これは現在の社会を作り上げ、その果実を享受している人にとっては、大変迷惑なことなので、強く抵抗します。しかし、いまや人類の持続が危惧される状況では、利害の対立でやり取りをしている段階ではありませぬ。それを続けていては、イースター島を始めとする数多くの文明崩壊の最後の事例を作る《光栄》を、我々が担う可能性が高いでしょう。

※今回、内藤先生には「地球にやさしい社会を実現するために」とのテーマにて、現状を知るから、これから私たちが向かうべき方向性を「示唆いただきました。少しの間を置き、今回は「自然と共生する社会の姿」とのテーマにて、より踏み込んだ内容にて連載いただける予定です。どうぞおたのしみ。【編集部】

このように、市民が力を合わせ、自然の力を活用する技術は、自然のリズムに合わせてその恵みと脅威を実感させ、そのことで《人と人の協働》、《人と自然の共生（人は自然の一部である）》の意識が培われるでしょう。

このように、市民が力を合わせ、自然の力を活用する技術は、自然のリズムに合わせてその恵みと脅威を実感させ、そのことで《人と人の協働》、《人と自然の共生（人は自然の一部である）》の意識が培われるでしょう。

このように、市民が力を合わせ、自然の力を活用する技術は、自然のリズムに合わせてその恵みと脅威を実感させ、そのことで《人と人の協働》、《人と自然の共生（人は自然の一部である）》の意識が培われるでしょう。

石川英輔 江戸時代はエコ時代



野菜1株1丁寧に手洗いして漬
けました。(青少年育成実習)

▼ 平和の中で、大量伐採によって、当初は島を覆っていた森が失われ、森を失った島からは、肥えた土が海に流れ出し、土地が痩せ衰えました。そこに人口爆発が起こり、僅か数十年の間に、人口が4倍にも5倍にも膨れ上がり、当時の島には、1万人を超える人々が暮らしていたと言われています。
やがて深刻な食糧不足に陥るようになり、頻りに耕作地域や漁場を争っては、森林伐採の結果として、家屋やカーヌーなどのインフラ整備を不可能にし、ヨーロッパ人が到達したときは、島には樹がなく、島民の生活は石器時代と殆ど変わらないものになっていました。そして、18世紀～19世紀にかけて、ヨーロッパ人により住民らは奴隷として連れ出され、外部から持ち込まれた天然痘が猛威を振り、先住民は絶滅寸前まで追い込まれ、1872年当時の島民数はわずか111人になってしまったという事です。



野沢菜漬用に、種から完全無農薬・無化学肥料で育てた野沢菜を収穫。

前回のコラムで色と心理学の
お話を書きました。今回のコラム
もその続きになります。今回はも
う少し詳しく、Circologyが
私達の生活でどのように使われて
いるのか、という話から始めま
うと思います。
カラートピアの看板やお店のテラ
スボードのコラムで色と心理学の
お話を書きました。今回のコラム
もその続きになります。今回はも
う少し詳しく、Circologyが
私達の生活でどのように使われて
いるのか、という話から始めま
うと思います。
カラートピアの看板やお店のテラ
スボードのコラムで色と心理学の
お話を書きました。今回のコラム
もその続きになります。今回はも
う少し詳しく、Circologyが
私達の生活でどのように使われて
いるのか、という話から始めま
うと思います。

赤とい色の持つ効用をうまく
すごろです。
赤とい色の持つ効用をうまく
すごろです。
赤とい色の持つ効用をうまく
すごろです。

「脳と心」シリーズ連載 第11回 人間と色彩、心の動き (2)



—たぐさんの場所が使われるカラートピア—

角田佳菜子

(ニューヨーク州立大学卒業
バイオニューロサイコロジー専攻)



店内の色も重要

カラートピアの看板やお店のテラ
スボードのコラムで色と心理学の
お話を書きました。今回のコラム
もその続きになります。今回はも
う少し詳しく、Circologyが
私達の生活でどのように使われて
いるのか、という話から始めま
うと思います。
カラートピアの看板やお店のテラ
スボードのコラムで色と心理学の
お話を書きました。今回のコラム
もその続きになります。今回はも
う少し詳しく、Circologyが
私達の生活でどのように使われて
いるのか、という話から始めま
うと思います。

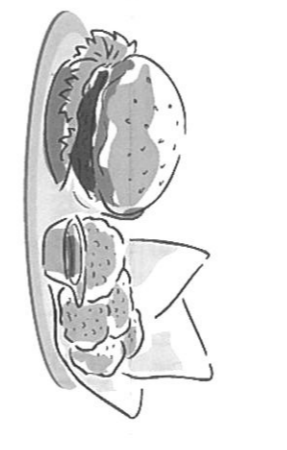
カラートピアの看板やお店のテラ
スボードのコラムで色と心理学の
お話を書きました。今回のコラム
もその続きになります。今回はも
う少し詳しく、Circologyが
私達の生活でどのように使われて
いるのか、という話から始めま
うと思います。

科学的なレベルや、本能的なレ
ベルで、体や脳に「何か」があるよ
うに思われます。どんなに進化を繰り
返しても、どんなに時間がたって
も、人間には本能的な意味で反応
する「何か」があるのではないか
と思います。その「何か」は、
生命を維持していくために回避す
べき「危険要素」を警告するもの
ではないのかな、とも思います。

科学的なレベルや、本能的なレ
ベルで、体や脳に「何か」があるよ
うに思われます。どんなに進化を繰り
返しても、どんなに時間がたって
も、人間には本能的な意味で反応
する「何か」があるのではないか
と思います。その「何か」は、
生命を維持していくために回避す
べき「危険要素」を警告するもの
ではないのかな、とも思います。

科学的なレベルや、本能的なレ
ベルで、体や脳に「何か」があるよ
うに思われます。どんなに進化を繰り
返しても、どんなに時間がたって
も、人間には本能的な意味で反応
する「何か」があるのではないか
と思います。その「何か」は、
生命を維持していくために回避す
べき「危険要素」を警告するもの
ではないのかな、とも思います。

科学的なレベルや、本能的なレ
ベルで、体や脳に「何か」があるよ
うに思われます。どんなに進化を繰り
返しても、どんなに時間がたって
も、人間には本能的な意味で反応
する「何か」があるのではないか
と思います。その「何か」は、
生命を維持していくために回避す
べき「危険要素」を警告するもの
ではないのかな、とも思います。



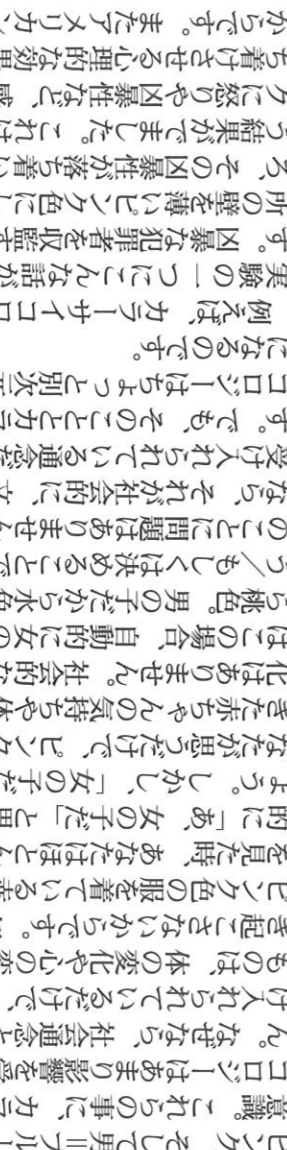
フアーストフード店の看板やロゴコー
ク・店内装飾などが赤いわけは...

科学的なレベルや、本能的なレ
ベルで、体や脳に「何か」があるよ
うに思われます。どんなに進化を繰り
返しても、どんなに時間がたって
も、人間には本能的な意味で反応
する「何か」があるのではないか
と思います。その「何か」は、
生命を維持していくために回避す
べき「危険要素」を警告するもの
ではないのかな、とも思います。

科学的なレベルや、本能的なレ
ベルで、体や脳に「何か」があるよ
うに思われます。どんなに進化を繰り
返しても、どんなに時間がたって
も、人間には本能的な意味で反応
する「何か」があるのではないか
と思います。その「何か」は、
生命を維持していくために回避す
べき「危険要素」を警告するもの
ではないのかな、とも思います。

科学的なレベルや、本能的なレ
ベルで、体や脳に「何か」があるよ
うに思われます。どんなに進化を繰り
返しても、どんなに時間がたって
も、人間には本能的な意味で反応
する「何か」があるのではないか
と思います。その「何か」は、
生命を維持していくために回避す
べき「危険要素」を警告するもの
ではないのかな、とも思います。

科学的なレベルや、本能的なレ
ベルで、体や脳に「何か」があるよ
うに思われます。どんなに進化を繰り
返しても、どんなに時間がたって
も、人間には本能的な意味で反応
する「何か」があるのではないか
と思います。その「何か」は、
生命を維持していくために回避す
べき「危険要素」を警告するもの
ではないのかな、とも思います。



お料理の盛り付けでも色彩は
重要ですが、グリーンやオレンジ
は重要なポイントです。

科学的なレベルや、本能的なレ
ベルで、体や脳に「何か」があるよ
うに思われます。どんなに進化を繰り
返しても、どんなに時間がたって
も、人間には本能的な意味で反応
する「何か」があるのではないか
と思います。その「何か」は、
生命を維持していくために回避す
べき「危険要素」を警告するもの
ではないのかな、とも思います。

科学的なレベルや、本能的なレ
ベルで、体や脳に「何か」があるよ
うに思われます。どんなに進化を繰り
返しても、どんなに時間がたって
も、人間には本能的な意味で反応
する「何か」があるのではないか
と思います。その「何か」は、
生命を維持していくために回避す
べき「危険要素」を警告するもの
ではないのかな、とも思います。

